



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. 6

2017.9.10

信州ESD
コンソーシアム
事務局

目次：ユネスコスクール交流会／社会主事講習／研修会・総会／ESD 条例

8月6日北信越ユネスコスクール交流会に参加しました

金沢市にて初めての北信越ユネスコスクール交流会が開催されました。石川県、福井県、富山県、長野県から約40名の参加者が集い、信州ESDコンソーシアムからは、山ノ内西小学校・中野西高校・長野西高校・信州大学教育学部の教員が参加しました。交流会では、はじめに、金沢大学の鈴木克徳教授より、ESD・ユネスコスクールを巡る最新の動向について説明があり、その後、アートマイルプロジェクトやティデアプロジェクト等の国際交流事業や富山市奥田北小学校の実践事例が紹介されました。後半は、スモールグループに分かれ「ユネスコスクールまたはESD推進校として直面している最大の課題・困難について」「そのような課題・困難を克服するため、どのような方法が考えられるか」というテーマでワークショップを行いました。約60分のディスカッションの後、各グループからの発表を全体共有しました。ユネスコスクールとしてスタートして間もない学校から、活動が定着し次のステージを迎えている学校まで…、共感し合える課題もあれば、新たに知る気づきもあり、多様な学校が集まったからその充実した交流会となりました。今後、広域の交流、連携の輪が広がることが期待されます。



(安達仁美)

8月8-11日社会主事講習でESD講義/演習が行われました



社会教育主事とは、都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に置かれる専門的職員で、社会教育を行う者に対する専門的技術的助言・指導に当たる役割を担います。具体的な役割として、・地域の学習課題やニーズの把握・分析・企画立案やその企画の運営を通じた地域における仕組みづくり、・関係者・関係機関との広域的な連絡・調整、・当該活動に参画する地域の人材の確保・育成、・情報収集・提供、相談・助言等、・学校が社会教育関係団体、地域住民その他の関係者の協力を得て行う教育活動に対する助言、・地域の生涯学習のコーディネーター、などがあります。まさに、地域における持続可能社会形成ESDの主体とも言える専門職です。そのための講習を本年度は信州大学教育学部が担当しており、長野県と新潟県から27名の方が受講されました。講習は毎日9時から6時まで18日間というかなり厳しいものです。その中の4日間を信州ESDコンソーシアムのコーディネーター4名が担当しました。ESD関連の講義と善光寺界限、ユネスコエコパークの志賀高原のフィールドワーク、これらをふまえた2日間のESDプログラム作成演習でした。受講生は5グループに分かれてそれぞれが地域のニーズを基盤にした実現可能かつ特色ある魅力的なプランを作成するのに苦労していましたが最後には立派に仕上げ発表し、ESD学習4日間の締めくくりとしました。社会教育主事講習は日本各地の大学で実施されていますが、ESDについて体系的に実施するのは今回が初めてのことと思われ、長野・新潟地方にESDを広める貴重な機会になりました。(渡辺隆一)

社会教育主事とは、都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に置かれる専門的職員で、社会教育を行う者に対する専門的技術的助言・指導に当たる役割を担います。具体的な役割として、・地域の学習課題やニーズの把握・分析・企画立案やその企画の運営を通じた地域における仕組みづくり、・関係者・関係機関との広域的な連絡・調整、・当該活動に参画する地域の人材の確保・育成、・情報収集・提供、相談・助言等、・学校が社会教育関係団体、地域住民その他の関係者の協力を得て行う教育活動に対する助言、・地域の生涯学習のコーディネーター、などがあります。まさに、地域における持続可能社会形成ESDの主体とも言える専門職です。そのための講習を本年度は信州大学教育学部が担当しており、長野県と新潟県から27名の方が受講されました。講習は毎日9時から6時まで18日間というかなり厳しいものです。その中の4日間を信州ESDコンソーシアムのコーディネーター4名が担当しました。ESD関連の講義と善光寺界限、ユネスコエコパークの志賀高原のフィールドワーク、これらをふまえた2日間のESDプログラム作成演習でした。受講生は5グループに分かれてそれぞれが地域のニーズを基盤にした実現可能かつ特色ある魅力的なプランを作成するのに苦労していましたが最後には立派に仕上げ発表し、ESD学習4日間の締めくくりとしました。社会教育主事講習は日本各地の大学で実施されていますが、ESDについて体系的に実施するのは今回が初めてのことと思われ、長野・新潟地方にESDを広める貴重な機会になりました。(渡辺隆一)



8月27日信州ESDコンソーシアム第1回研修会と通常総会を開催しました

夏の暑さが残る中、本年度第1回の研修会を開催しました。今回は大牟田市教育委員会の教育長である安田昌典氏をお招きして市全体でのコンソーシアムとして学校への支援体制や具体的な活動についてのお話を具体的な事例を示されながらお話いただきました。ご自身が教員であった経験からお話いただき、ESDとの出会い、さらに市内全ての学校がユネスコスクール登録を目指す過程やそれぞれの学校での特色ある活動の様子や、それを支援する行政組織の体制作り等、多岐にわたるものとなりました。ご講演の中で繰り返し話されていたのは「他人の不幸の上に自分の幸せを築かない」という言葉であり、ESDが目指す具体的な活動の精神や体制のあり方等、本コンソーシアムの運営にも有効な話題が示されました。ご講演終了後には、行政と市民活動との関係作りについての質問等が参加者から出されました。また具体的な教育現場での考え方や実践については教育実習で奮闘する参加学部生から出される等、終了時間を越えて意見交換の時間となりました。散会後も参加者同士での情報交換や安田教育長への質問など途切れることがありませんでした。コンソーシアムメンバーを中心として参加者は40名ほどでした。



講演いただきました安田教育長もオブザーバー参加いただき有益なコメントをいただきました。(西一夫)

午後は会場を移して本年度の通常総会が行われました。本格的な初めての総会となる今回は、冒頭でコンソーシアム委員長の永松学部長から挨拶があり、役員を選出の承認をいただいて議事を進めることとなりました。活動面・予算面で活発な意見が出され、5年後10年後の活動についても、建設的な意見が出されました。議事終了後は出席の団体からそれぞれの紹介と活動報告をいただきました。また午前中の研修会で講演いただきました安田教育長もオブザーバー参加いただき有益なコメントをいただきました。(西一夫)

ESDの推進のためには多様な関係者が協力、協同することが必要である。岡山市は「岡山ESD推進協議会」が2005年にできているESD先進地である。さらに岡山市は行政としてESDを推進する条例を制定し、地域での中心的役割を果たしている。以下に条例の一部抜粋を紹介する。

○持続可能な開発のための教育の推進に関する条例

私たちは、持続可能な発展のために欠かすことのできないESDに真摯に取り組み、国内外の地域や組織と連携し、協力しながら、地域全体でESDに対する取組をさらに強化し、平和で持続可能な社会の実現に貢献するまちづくりを推進することを決意し、この条例を制定する。

(目的) 第1条 この条例は、豊かな環境と調和のとれた経済の発展を図りながら持続的に発展することができる社会(以下「持続可能な社会」という。)を構築するため、ESDの推進に関し、基本理念を定め、それぞれの責務を明らかにすることにより、現在及び将来の市民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的とする。

(定義) 第2条 (1) ESD Education for Sustainable Developmentの略であり、持続可能な社会の構築に向け、社会課題と身近な暮らしを結びつけ、新たな価値観を生み出し、行動を変革することを目指す学習や活動全般をいう。

ESD小辞典 ESD 条例



(基本理念) 第4条 ESDは、世代を超えた私たち一人ひとりが、将来世代や地球環境との関係性の中で生きていることの認識とともに、それぞれの地域の自然環境の保全、市民の生活の安定及び福祉の向上並びに文化や歴史の継承に資するとの認識の下に、環境、経済、社会文化その他の持続可能な社会の構築に関わるあらゆる分野において、それぞれ適切な役割を果たすとともに、協働と連携を図りながら、体系的かつ総合的に推進されなければならない。

(市の責務) 第5条 市は、前条の基本理念(以下「基本理念」という。)に基づき、ESDに関する施策を総合的かつ計画的に策定し、及び実施しなければならない。

(教育機関の責務) 第6条 教育機関は、基本理念に基づき、自らの教育活動全体の中で総合的にESDに関する取組を行うよう努めなければならない。

(市民及び市民団体の役割) 第7条 市民及び市民団体は、基本理念に基づき、日常生活において持続可能な社会の構築に配慮した行動をとらなければならない。2 市民及び市民団体は、持続可能な社会づくりに係る諸活動に積極的に参画するとともに、市並びに教育機関若しくは事業者等と連携協力し、ESD活動に努めなければならない。



信州ESD通信

No.6 2017.09.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoesh@shinshu-u.ac.jp